

変わりゆく町並み

とうばるふるじま
— 桃原古島遺跡に思う —

運玉の緑もまぶしく、白いテッポウユリの花が私たちの目を楽しませてくれる季節となりました。毎年この季節を心待ちにしている方も多いのではないのでしょうか？

字桃原の集落内・標高四十メートルの微高地には、桃原の古島があったと伝承される丘があります。

一九八〇年に町が実施した遺跡分布調査で確認され、「桃原古島遺跡」と名付けられた遺跡です。地表面からは



△シブーガー

グスク時代の土器や輸入陶磁器などが採集され、貝殻の堆積する地層もみられたようです。また、丘下には、一見墓口のようにみえる「シブーガー」と呼ばれるムラガーも位置していました。この井戸は、斜面を横に掘り込む、他には見られない珍しい造りの井戸でした。

以前、コンコンと湧き出る井戸の前にはクムイ（ため池）があったという話です。また、水質が良く、豆腐をつくる水としても利用されたようです。今頃になると、井戸のまわりに白いユリが花開き、しっとりとした雰囲気を漂わせていました。

現在、シブーガーの姿はありません。造成工事が行われ、周辺の様子は一変しています。

あのユリが見れないのは残念だなあと感じる今日この頃。

一九九六年・春。みなさんも同じ場所で、同じ風景を見えていますか？